

『ORBIT English Reading』

読解力養成のための一提案

昭和第一高等学校 佐々木 健

1. はじめに

「読解力」の意味を『大辞林』で調べると「文章を読み、その内容を理解すること。『一力』と定義されている。一方、文部科学省が「読解力向上プログラム」として平成17年12月に発表した資料の第2頁によると、*PISA型「読解力」の定義・特徴という耳慣れない言葉で読解力が定義されている（PISA調査とは、生徒の学習到達度調査のことで、OECD＝経済協力開発機構によって世界41ヶ国／地域が参加し、日本では平成15年7月に高校1年生約4,700名を対象に実施されたもの）。そして、文部科学省の見解として、PISA調査の目的は「読解の知識や技能を実生活の様々な面で直面する課題においてどの程度活用できるかを評価することを目的としており、これは現行学習指導要領がねらいとしている『生きる力』『確かな学力』と同じ方向にある」としている。そして、読解力向上のための「3つの重点目標」と「5つの重点戦略」を積極的に進めてもらいたいと結んでいる。では、具体的にPISA型「読解力」はどのように定義されたものなのか。文部科学省が発表したものによると『自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力』とあり、さらにPISA型「読解力」の問題では、行為のプロセスとして、テキストの中の事実を切り取り、言語化・図式化する「情報の取り出し」だけではなく、書かれた情報から推論・比較して意味を理解する「テキストの解釈」、書かれた情報を自らの知識や経験に位置づけて理解・評価（批判・仮定）する「熟考・評価」の3つの観点を設定している。また続いて、「読解力」とは文章や資料から「情報を取り出す」ことに

加えて、「解釈」「熟考・評価」「論述」することを含むものであるということと、次のような特徴があると付け加えている。

以下に長くなるが、その内容を引用させていただく（下線は筆者）。

- ①テキストに書かれた「情報の取り出し」だけではなく、「理解・評価」（解釈・熟考）も含んでいること。
- ②テキストを単に「読む」だけではなく、テキストを利用したり、テキストに基づいて自分の意見を論じたりするなどの「活用」も含んでいること。
- ③テキストの「内容」だけではなく、構造・形式や表現方法も、評価すべき対象となること。
- ④テキストには、文学的文章や説明的文章などの「連続型テキスト」だけではなく、図、グラフ、表などの「非連続型テキスト」も含んでいること。

ここで、提言された内容から判断すると、先ず最初に問題を突きつけられるのは教師である。先ずは、文部科学省の発表した「読解力向上プログラム」を全員の教師が熟読玩味すべきである。そして、PISAの考えに基づいてどのような授業展開（課の狙いの解説、教科書に書かれていない資料の配布、モデルリーディング、コーラス、単語・熟語・構文・文法解説・訳、内容確認、そして場合によってはディベート）をすべきかを再吟味しなければならない。続いては教科書会社であろう。現在発行し、使用されている教科書の内容がPISAの示した方向に沿っているかを検討し、部分改訂しなければならないものも出てくるであろう。さらに文部科学省も

早晚、PISAの方向を明確に打ち出し、教科書の全面改定に進むことは確実であろう。

では、Reading 15のFood Shortage: What do you think? を例に取り、一つの授業案を提案してみたい。

2. 導入

「課の話題は食糧不足」である。本文では、panel discussion（公開討論会）の形式を取り、アメリカ合衆国出身の理科教師John Smithが司会を務め、西暦2050年までに地球の人口が現在の2倍の100億になるが、そんなに多くの人々に十分な食料が供給できるかどうか、と話題を切り出す。それに対して、先ずインド出身の高校生Raja Nageshが「多くの人々が餓死している」とか「現在食べられていない物を食べるようになる」と悲観論を述べている。それに対して日本出身のSuzuki Kenが「良い肥料が出来て、トウモロコシや米、麦の収穫が増加し、さらに科学技術の劇的な発達によって食料は十分に供給

されるし、新種の食物が発見されるので、食糧不足は心配ない」と楽観論を述べている。3番目にコスタリカ出身のMaria Lopezは「宇宙旅行や軍隊や武器にどれほど多くのお金が使われているか、そのお金を人々の生活改善や水の供給を改善したり、先進国の人々が食生活の習慣を変えるべきだ」と前の2人とは全く違う視点から論を述べている。そして、全体討議ではKenとMariaの意見が「楽観論」だとか、新しい食料が出来ても「味が変だ」とか、先進国の「残飯」問題とか、先進国は皆で食料を「分かちあうべきだ」と言うことで話が終わる。

❖ 導入に関しての教師の役割。

ア. 3人の討議に関する資料を補強する。

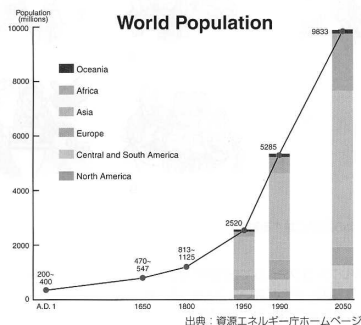
イ. 前述の討議に出てこなかった別な視点の考え方や資料を提供する。

1. 地球温暖化と砂漠化の進行（CO₂の排出量と地球温暖化のグラフ、氷河が崩れる写真等と共に）

READING 15

Food Shortage: What do you think?

このままの勢いで世界人口が増え続けると、人類は生存に必要な食料を確保できるでしょうか。事情の異なる3つの国の生徒がそれぞれ注目すべき意見を述べています。あなたは誰の考えを支持しますか。



Reading Strategy
英語の文章では、まず結論・結果 (effect) を述べ、続いてその理由・原因 (cause) を述べたり、出来事述べてからその結果や影響 (結果) を追加する、という構成で書かれることがあります。そのような構成法に注意して読んでみよう。

shortage [ˈʃɔ:tɪdʒ]

56 - Reading 15

1



答えを探しながら読んでみよう

1. ラジャによると、人間は2050年ごろにどんなものを食べていますか。
2. ケンは、将来食料増産の可能性があると考えています。その理由を2つ探してみよう。

パネルディスカッション参加者

John Smith: Moderator (司会者)。東京の Orbit International High School 理科教師。アメリカ合衆国出身。

Raja Nagesh: 同校2年生。India (インド) 出身。

Suzuki Ken: 同3年生。日本出身。

Maria Lopez: 同2年生。Costa Rica (コスタリカ) 出身。

MODERATOR: Good morning, everyone. Welcome to our discussion on food shortage. A recent study shows that the world's population will double to 10 billion by 2050. Can we produce enough food for so many people? Let's talk about it.

Raja, what do you think?



moderator [mɒdə'reɪtə] recent [rɪ'sent] population [pɒpjə'leɪʃn]

John Smith [dʒɒn smɪθ] ジョン・スミス **Raja Nagesh** [rɑ:dʒə nɑ:gəʃ] ラジャ・ナゲシ **India** [ɪndiə] インド **Maria Lopez** [mə'riə lɒpez] マリア・ロペス **Costa Rica** [kɒstə 'rɪkə] コスタリカ (中米の国の名)

Food Shortage: What do you think? - 57

*砂漠化を防ぐ様々な取り組み（灌漑^{かんがい}をしたり、保水の技術として納豆の粘り成分の活用）

2. 植物性食物・動物性カロリーの比較と食生活のあり方
 3. 地産・地消（Local production for local consumption）の食生活と口ハス（Lifestyles of health and sustainability = 健康を重視し、持続可能な社会生活を心掛ける生活様式）の紹介
- *身近なbiotechnologyの例として、渋柿に甘柿の接ぎ木をして甘柿を作ることや、キュウリの苗をナスに接ぎ木して丈夫なキュウリを作ること等を紹介し、身近に科学を感じさせるようにする
4. 人間生活と生態系の共生について（江戸時代の日本人の生活と3R = Reduce, Reuse, Recycleを取り上げ、紹介）

◆モデルリーディング及びコースについて

モデルリーディングは、panel discussionであるから、教師は皆に話しかける明瞭な口調で発音し読むように注意する。また、生徒にもそこを注意させる。developedはアクセントの位置が第二音節のeにあり、最後の綴りdの発音がtであることにも注意させる。

◆単語・熟語・構文について

◆Welcome to our discussion on food shortage.

「～について・～に関する」の意味を表すonとaboutの違い。aboutよりonの方がより詳しく専門的である事をWill you teach me the cause on this accident? 「この事故についての原因を教えてくださいませんか」のような例文を用いて教える。

◆population will double to 10 billion by 2050.

ここでのbyの用法が終了の期限を表す「～までに」と訳される事を確認し、同時に同じような意味を持つtill、untilとの意味の違いを理解させる。このbyはkey wordである。

◆I'm just glad I won't be living then!

ここでのjustが「丁度」ではなく、全く別の意味であることを推測させる（皮肉的に、「とても」の意味）。

◆その他、慣用的に用いられたい注意すべき表現について

◆A recent study shows that S+V

「～によれば」と訳させる習慣をつける。そうすれば生徒が今後、訳や英作をするときに極めて有用である。

その他よく用いられるenough ~ for ..., starve to death, all over the world, worry about ~、would like to ~、in addition, in timeのような熟語も例文と共に暗記をさせ、いつでも英作文や訳で応用が利くようにさせることが望ましい。

3. おわりに

紙幅の関係で、「5つの重点戦略」には全く触れることが出来なく、中途半端な提案になってしまったが、「PISA型読解」の定義からは、「子供達を将来社会を構成し担っていく人間として育てていく」という極めて積極的かつ明瞭な意志が感じられる。得てして、子供達は教師の意志とは別に「点数」や「偏差値」に一喜一憂し、教科書に書かれている話題に「易しい」「難しい」「好き」「嫌い」の反応を示すことが多い。私事に触れて申し訳ないが、時代がそうであったためか、私は高校の国語の時間に習った小林秀雄の「歴史について」の一節と、受験勉強の教材にあった英国の哲学者Bertrand Russellの「民主政治について」の文章に強い感銘を受けたことを覚えている。そして、それはその後の私の物の見方に多大な影響を与えていることは確かであるし、私が教壇に立っている理由の一つもそこにある。

だからこそ、授業をするのは教師であるけれど、話題や教材の選択に興味・関心を引く楽しい内容も必要だが、人の生き方を考えさせるための幅広い視野と奥深い哲学を含んだものも必要であることを強く感じる。

